

インターバンクの声（2017 年 6 月 26 日）

週末のロンドン、ニューヨーク外国為替市場は、ユーロ、ポンド、豪ドルなどが東京市場の朝方の水準から 50～60 ポイントほど上昇したものの、ドル円相場は 111 円台前半での小動きに終始した。先週は原油安と米金利の低下がドルの上値を抑え、懸念された米住宅関連指標が悪くない内容だったにも関わらず、ドルを買い進めるほどの影響力はなかった。

先週の複数の FRB 高官による講演では、年内の利上げがなくなるような可能性を匂わす発言はなかったが、市場では 9 月だけでなく、年内の利上げ実施についても不透明感が漂い始めている。今週は日本勢にとっては四半期末、海外勢にとっては半期末に当たり、先週のような「夏枯れ」相場入りかと思わせるような相場が続くと安易に考えないほうが良いだろう。

今週の前半には先週より多くの FRB 高官の講演予定もあり、後半には米国の第 1 四半期の GDP 確報値や個人消費関連指標の発表もある。112 円を超えて行くような相場展開になると面白いのだが。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。